



# 読者之声

三五号を愛読しました。

と二三で、マアサセ、カメ  
ラハ一日の二ニニペーシは  
すこいひすよ。

曰く、「喧嘩や殺しが日常  
茶飯事か……」

私が笠の住人なの 朝日新  
聞社に文句の一つと言つてや  
りたいのですが、郵外者がシ  
ヤリ出すこともあるまい

と、黙々まかりました。新世  
界の住人は、不とらしい人は  
かりとみえて、この写真家  
一土田ヒロミ、マ野郎はクハ  
になつてません。

ホンを言つて、いると評判  
のラオオ番組に投票して外よ  
しんが、ボウになりました。

考えてお水は当然で、マスコ  
ミがマスコミの悪口をきつ  
つはな。

せめて、「渡せしが又何を  
言つてくいるのははないか

期何しとこのだけれども、  
年に一回の旅行では、これ  
は無理か。

四十番を終り方人々を言  
なりで、せいぜいがニドッ  
まくにさいませ。

智和 正

ついでと、お礼がたぐく拝受料

の、今ならぬしうが。

まことにありがたき料理オデ

読ませていたに過ぎました。ヨ

私の親には、露天庵かう二

このようなる、血の汁そのこ

るまで、お空間の、この側で、

千田の書、辰崎討討が今もほ

らざるのせていたに過ぎました。

らくぐい歯をむいて、と笑

められていて、然加工事をつ

ありかとうござりました。

つて、いろいろ不思議な経緯

に、偏が、ボリち、んがつい

高見 鉄

をさせてくれました。

た場、はい、たかうスゴレに

× ×

金の、今がしたたかにしら

、所をたしかめ、市兵忠念

読者の声、一筆問二八へ、

えらめいていすね、た、事

の生活を運、ていす。

私も同感です。事務若渡

さきか、とりのり、愛蔵は感

の、か、なるには、なにも

情類交際の場をお、ていいヒ

の文飾と、この、語り口と、

なり、ない、今更つとに

思、う、です。だから、危険な所

にか、振、散、して、いろいろ

う、や、い、です。

さけるべき所は、愛を、た、た

た、た、ました。それし、金

せん、た、た、は、

方、か、いい、様、に、思、い、ます。

これは、ごく最近からしか、前

て、せ、ろ、の、も、編、集、者、の、定、稿、に

情、な、ど、を、一、語、に、充、振、り、い、や、

猪、首、渡、せ、は、読、ん、で、い、ま、せ、ん

か、か、て、い、ろ、の、で、す。

て、いた、仲、間、が、先、日、を、よく、お、話

が、せ、め、て、三、月、に、一、度、は、お

せ、の、中、が、交、り、な、り、限、り、に、渡

別、つ、く、ら、い、ま、し、た。お、た、か、い、ジ

して、飲、し、り、の、で、す。編、集、者

せ、は、つ、お、出、る、ゆ、け、な、い、の

イ、ご、ん、に、な、た、こ、と、な、笑、い、合

員、の、皆、様、の、御、苦、勞、は、大、変、に、事

な、す。作、業、に、手、間、取、り、て、突、行

い、は、疾、は、ヒ、ール、小、生、は、理、財

と、思、い、ま、す。か、し、か、し、不

が、運、れ、る、の、な、ら、私、の、様、な、者

を、乾、杯、し、ま、し、た。

正如、ま、かり、通、り、世、の、中、う、つ

た、も、お、ま、る、事、が、お、れ、は、手、伝、い

三、五、若、は、刷、り、が、痛、く、て、読

む、さ、か、げ、ん、に、し、か、歩、く、事、の、状

に、行、か、せ、て、頂、き、ま、す。百、田、を

お、た、ら、い、と、こ、ろ、も、あ、り、ま、し、た

未、だ、い、毎、日、の、中、で、お、出、ほ、ど

こ、ん、な、に、値、う、ち、の、お、る、本、は、他

か、へ、と、く、に、引、ら、ず、あ、り、ま、し、た

一、激、せ、を、楽、し、み、に、し、て、い、る

に、あ、り、ま、せ、ん。

ら、こ、と、直、刺、し、針、さ、で、て、も、ら、

着、か、い、る、か、と、い、う、事、を、御、存、知

で、す、か。大、変、感、に、い、え、ば、や

て、い、ま、す。

尾、形、美、保、子

×

高、木、護

う、い、う、お、話、を、読、み、す、の、を、お、福

不、か、し、久、留、米、預、金、八

高、木、護

×

×

高、木、護

×

×

高、木、護

×

×

高、木、護

×

×

高、木、護

×

×

高、木、護

×

×

高、木、護